

丸の内の街全体をイベント会場に見立てて演出

日本最大規模の医学会「第 31 回日本医学会総会 2023 東京 博覧会」での都心型エリア MICE の展開



DMO 東京丸の内は、丸の内エリア（大手町・丸の内・有楽町）でビジネスイベントを街ぐるみで展開する「都心型エリア MICE」※の誘致を掲げ、さまざまな関係者と連携して、エリアで開催されるイベントをサポートしています。

4 月 15 日（土）～23 日（日）に丸の内・有楽町エリアで開催された、日本最大規模の医学会「第 31 回日本医学会総会 2023 東京」では医療従事者向けの学術集会と同時開催で「第 31 回日本医学会総会 2023 東京 博覧会」（主催：日本医学会、以下「博覧会」）が開催されました。120 年以上の歴史のある日本医学会総会では、これまで学術集会と博覧会は離れた会場で開催されてきたため、医療従事者が博覧会に参加することが難しいという課題がありました。今回、医療従事者も市民も混ざり合う形で有機的にエリアを回遊しながら博覧会を体験いただけるようにするため、さまざまな演出を行いました。学術集会・展示のほか、一般を対象にした博覧会を徒歩圏内で同時開催しながら、街の随所では、医療・健康・ウェルビーイングをテーマとした「街ぐるみイベント」も多数行われ、交流・市民参加型の新しいスタイルでの展開となりました。約 40 万人の来場が見込まれる中、街全体で MICE 開催時の機運醸成に取り組み、博覧会を盛り上げるとともに、街としても賑わいを創出する貴重な機会となりました。

※都心型エリア MICE：1カ所の施設内にとどまらず、街全体をイベント会場に見立てて開催するビジネスイベントのあり方のこと。

●開会式



開会式のテープカットは、東京消防音楽隊によるファンファーレと共に行われた

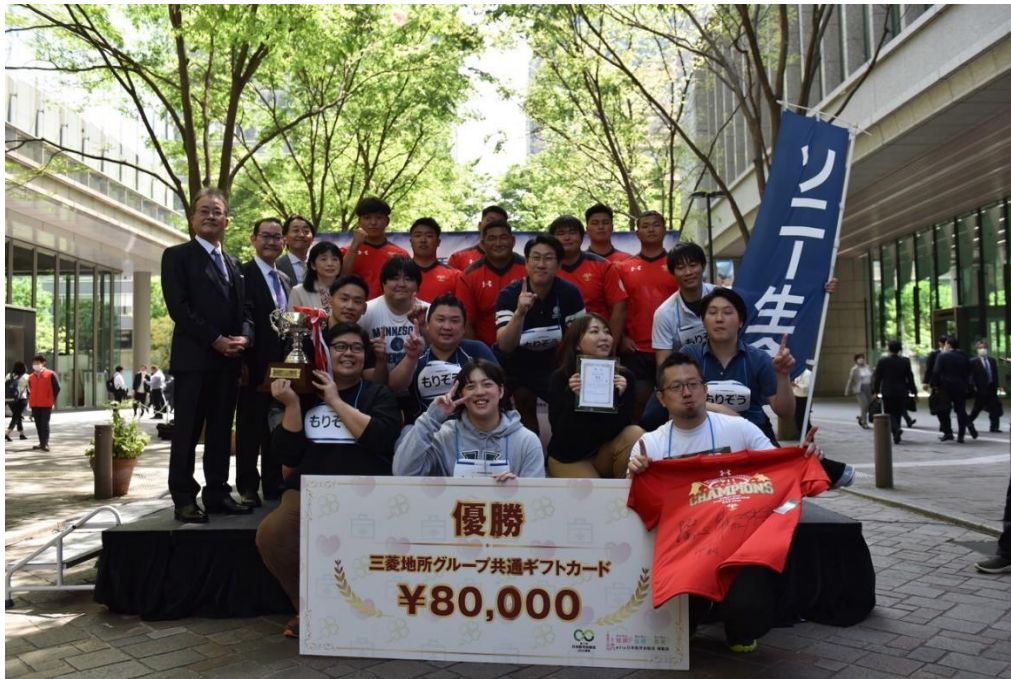
丸ビル マルキューブで行われた開会式は、東京消防庁音楽隊によるオープニングコンサートでスタート。春日雅人会頭による主催挨拶、東京都の小池百合子知事、東京都医師会の尾崎治夫会長による来賓挨拶が行われたのち、青木茂樹展示委員長による開会宣言で、9日間の博覧会が開幕しました。

● ウェルビーイングな「街ぐるみイベント」の数々



丸の内の風物詩となった、今年の「仲通り綱引き大会」。写真は決勝大会優勝チームの皆さん

会期中、丸の内の街全体で医療・健康・ウェルビーイングをテーマとした、さまざまな「街ぐるみイベント」が開催されました。中でも、ウェルビーイングに関連するイベントとして盛況を呈したのが、「大手町・丸の内・有楽町『仲通り綱引き大会 2023』」。年に1度、大丸有エリアの就業者がランチタイムに綱引き勝負を行う姿が話題となり、年々盛り上がりを見せている、丸の内の恒例イベントです。7回目の開催となる今回は、日本医学会総会とのコラボレーションとして博覧会の会期に合わせて実施されました。大勢の応援者が見守る中、全4860総勢360余名のオフィスワーカーが参加し、エリアNo.1の座を狙い勝負に挑みました。



表彰式の様子

予選リーグを勝ち抜き、決勝大会でみごと勝利を収めた優勝チームは、全国大学ラグビーフットボール選手権大会優勝チームの帝京大学ラグビー部とのエキシビジョンマッチに臨みました。



ランチタイム後のリフレッシュに最適な約 15 分間のラジオ体操

エリアワーカーのために、毎年春と秋に行われるイベント「ラジオ体操」も、今年は博覧会の会期に合わせて開催され多くのワーカー、博覧会来場者が参加しました。

●会場をエリア内に複数設置／街全体を会場とする演出



丸ビル マルキューブ



東京国際フォーラム



KITTE アトリウム



行幸地下ギャラリー

今回、博覧会の会場となったのは、丸の内仲通りをはじめ、「東京国際フォーラム」、「KITTE アトリウム」、「丸ビル マルキューブ」、「行幸地下ギャラリー」など、エリア内にあるさまざまな施設です。複数の会場を設置することで、街全体を会場とする演出を施しました。

各会場では、健康・医療・長寿にまつわるさまざまな展示が行われたほか、多彩な体験プログラムが実施され、子どもから大人まで多くの人で賑わいを見せました。



ラッピング広告をまとった「丸の内シャトル」



丸の内仲通りに掲出された博覧会の街路灯フラッグ



丸の内仲通りでの救急車の展示、子ども向け乗車体験



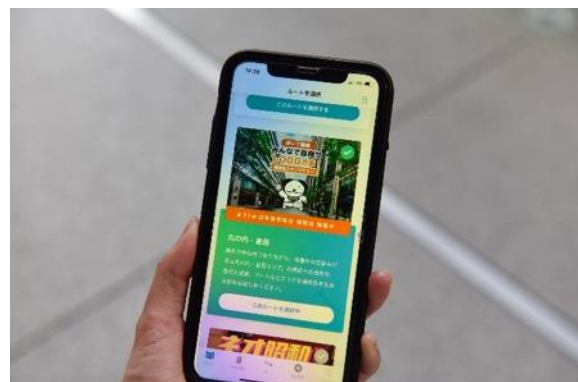
博覧会のデザインを施したアーバンテラスのテーブル

街全体を会場とする演出は、来場者への歓迎ムードを高めるべく、街のそこかしこにも施されました。大丸有エリアを周回するシャトルバス「丸の内シャトル」や、丸の内仲通りを彩る街路灯のバナーフラッグ、「丸の内仲通りアーバンテラス」に設置されたテーブルの盤面には博覧会のデザインを施し、シティドレッシングの形で一体感を醸成し、博覧会来場者だけでなく、街を訪れた一般の方々にも、イベントが開催されていることが発信できました。

このほか、丸の内仲通りでは救急車の展示と子ども向けの乗車体験を実施し、エリア内の各所では、クラシック音楽の屋外コンサートが行われました。弦楽、木管カルテットやフルートトリオが奏でる音色により、心身ともにリラックスすることで、来場者や来街者が健康に気づく契機を提供しました。



クラシック音楽の屋外コンサート



博覧会会場に設置されたスタンプラリーの QR コード

アプリで楽しむ丸の内エリアの“歩き旅”



丸の内ポイントアプリのクーポン



東京国際フォーラムにて。出展者の皆さんとマルケン

また、来場者、来街者に丸の内・有楽町エリアを回遊していただくために、旅アプリ「膝栗毛」と連動した、博覧会期間限定のスタンプラリー「歩いて健康 みんなで目指せ 1000 万歩」を実施しました。博覧会会場やエリア内の店舗に設置された QR コードをスマートフォンで読み取り、ゴール地点の「Have a Nice TOKYO！」に着くと、景品をお渡しするという企画です。大丸有エリアの街の観光案内拠点である Have a Nice TOKYO！は、会期中、総合インフォメーションセンターとしても機能しました。

博覧会の応援団長として各会場に登場し、イベントを大いに盛り上げたのが、大丸有エリアマネジメント協会のイメージキャラクター「マルケン」です。彼が登場するところには、笑顔があふれ、賑やかな雰囲気に包まれました。

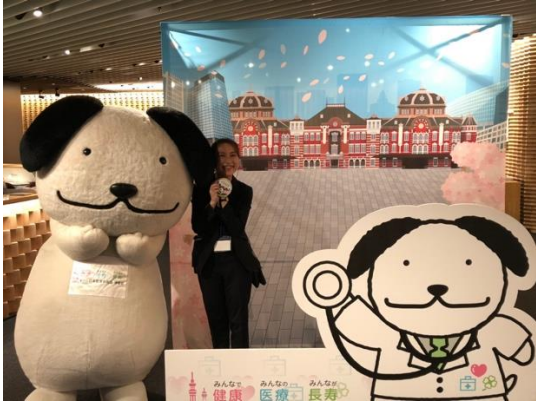
■COLUMN



主催者の視点：順天堂大学健康データサイエンス学部長/医学部放射線科教授 青木 茂樹先生

「これまで数多くの学会を開催したり、参加したりしてきましたが、エリア一帯を活用した学会は初めてでした。丸の内エリアの皆様とたくさんの連携をしながら、35 万人という来場者を集めることができ、参加者の満足度にも貢献できたのではないかと思います。

また、街の様々な施設や屋外空間を組み合わせながら活用したことで、協賛や出展者の応募状況を見ながら使用範囲を広げたり狭めたりすることができたという点も、新型コロナの情勢がどうなるか分からない中で、主催者として大変ありがたかったです。大きな博覧会会場を借り上げて展示ブースで埋める従来のスタイルではない、都心型エリア MICE の大きな可能性を感じました」



PCO の視点： 株式会社コングレ メディカルソリューション事業部 森田 莉可氏

「都心型エリア MICE を実現させるためには、主催者と開催地の相互理解が不可欠でした。開催地の皆様には医学会総会の特性をご理解いただき、主催者の皆様には地域の魅力を盛り込んだ企画を提案し、推進させていただきました。

準備・運営を行う際には、多くの関係先との調整を重ねたうえで、私たち自身が各施設・空間のルールをきちんと理解し、スケジュール通りに必要な手続きを行う必要がありましたが、この点を DMO 東京丸の内の皆様に手厚くサポートいただいたことも大きな成功の要因だと感じています」

●MICE 業界関係者を対象にした視察ツアー

博覧会会期の後半には、MICE 業界に携わる方々に都心型エリア MICE の実例をご覧いただく視察ツアーを開催しました。省庁や他拠点 DMO の皆様、エリアマネジメント団体の皆様など 30 名以上の関係者が参加され、実際の会場と一緒に歩いて説明しながら視察をしました。視察終了後は準備スケジュールや具体的な課題とその解決方法などについて、多くの質問を受け、活発な意見交換の場となりました。



MICE 業界関係者を対象にした視察ツアー

120 年以上の歴史ある学会において、学術会議と博覧会を同時期に同じエリアで開催したのは初めての試みでした。今回、街全体をイベントの舞台とすることで、そこに集まる多様な人々の間に活発な交流が生まれた博覧会は、盛況のうちに終えることができました。DMO 東京丸の内は、今後も主催者の思いを形にするローカルの Co-planner としてコミュニケーションを取り、都心型エリア MICE のさらなる誘致を進めながら、エリア内で開催されるイベントとの連携など、相乗効果を高められるよう、サポートに尽力してまいります。